

成人の外国語教育における 教室の役割

メタプロジェクトのプロジェクト学習を事例に
神吉宇一
uichik1113@gmail.com

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

1

今の仕事

- 長崎外国語大学 特任講師
- 民間企業の新規事業開発アドバイザー
- 日本語教師養成講座のアドバイザー
- 地域国際交流協会のアドバイザーや講師
- 日本語教育学会副会長他研究会運営等

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

2



ハトシ(蝦多士)

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

3

長崎の夜景



世界新三大夜景 長崎 香港 モナコ

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

4

長崎ランタンフェスティバル



2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

今日の内容

経験学習理論から
日本語教育・学習を考えてみることで
学習のデザインをどう考えるかということと
教室・教師の役割について
をみなさんに残したい

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

6

教室内外のリソースとは

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

7

教室内外のリソースとは

- 人的リソース
 - 会話をしてくれる人
 - 知識や情報を提供してくれる人
 - 見てくれる人
- 物的リソース
 - なんだろう??教材とか関連する素材かな
- 情報リソース
 - 専門知識
 - 自分自身の経験
- 「場のリソース」ってのがありそう

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

8

教室の限界

- 以前から、教室のリソースをもっと豊かにしたいと思っていた
- できるだけ外の世界とつながる活動
- 包括的な能力育成
 - プロジェクトワークだっ!
- でもだいたい失敗・不満



©LINE

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

9

経験学習の系譜

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

10

なぜ「経験学習」なのか

- 「アジア人財事業」による元留学生社員へのヒアリング調査
- 私自身は日本で教えているので、日本の「地域日本語教育」や大学の教育における問題意識

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

11

アジア人財

- 「アジア人財資金構想事業」(2007~2011)
- 留学生の就職支援事業
- 日本の就活(シューカツ)の典型的なパターン
 - 3年生の夏休み 3年冬から4年初夏

インターンシップ

就職活動

就職

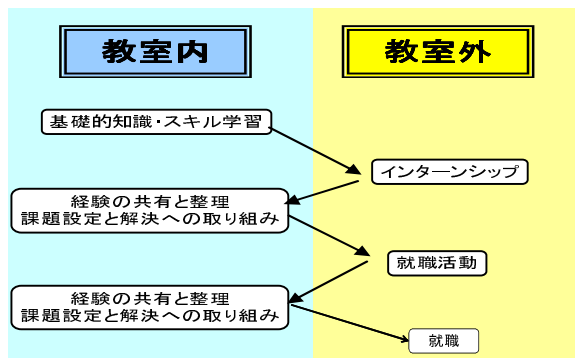
インターンシップで経験したことを確認したり整理したりする場がないんですよね授業に出てるより...

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

12

だったらこんなふうにしたら？

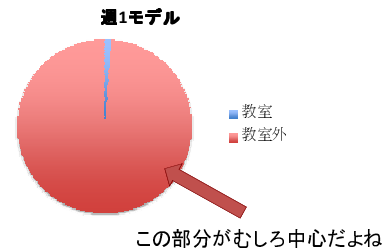


2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

13

地域の日本語教室の学習時間



2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

14

なぜ「経験学習」なのか

- 「アジア人財事業」による元留学生社員へのヒアリング調査
 - 私自身は日本で教えているので、日本の「地域日本語教育」や大学の教育における問題意識
- ↓
- 教室の役割の**一部**を根本的に考え直したほうがいいのかも
 - 教室外での経験を整理する場にできないか
 - 彼／彼女たちの経験や未来を素材にして考える

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

15

職場学習研究との出会い

- 前職で、企業向けのコース設計を担当
 - 日本語教育プラスαをどうするか模索
 - 日本語だけじゃなくて「人が育つ」研修
- 中原淳や松尾睦の一連の研究



2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

16

理論的背景

大きくは、80年代以降の「状況論」との親和性が高い

- Lave & Wenger(1991), Saxe(1988)
 - SfardのAMとPMの議論
- つまり、「学習」と「社会的な参加」を関連づけ、学ぶとはさまざまなものとの関係性を構築することであるという立場
- ど真ん中はKolb(1984)の経験学習理論

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

17

経験学習とは

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

18

経験学習とは

- 「学び方を学ぶ」こと (Kolb1984)

Kolbの経験学習理論

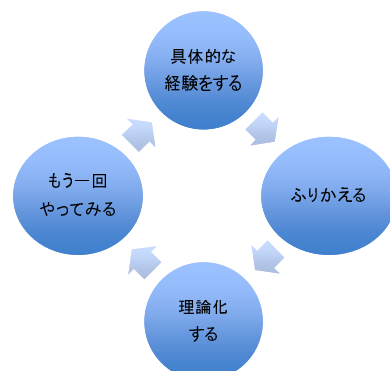
1. 学習は結果ではなくプロセス
2. **学習は経験に基づく再学習**
3. 学習は環境に適応する上で弁証法的に対立するモード間の矛盾を解決するプロセス
4. 学習は環境に適応するための全体的なプロセス
5. 学習は個人と環境の相互作用から生じる
6. 学習は知識を創造するプロセス

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

19

経験学習サイクル



2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

20

学びの70:20:10

- 直接自分で経験したことから学ぶ 70
- 他者の観察やアドバイスで学ぶ 20
- 書籍や研修で学ぶ 10

直接経験

間接経験

McCall *et al.* (1988), Morrison & Brantner(1992)

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

21

大人が学ぶ際のさまざまなポイント

学習を促進する三要素

- エンジョイメント(楽しみ)
- ストレッチ(挑戦)
- リフレクション(ふりかえり)

この三つを
学習活動に
うまく盛り込み

上記を動かす二要素

- 思い
- つながり

この二つを
学習活動を通して
うまく育てられないか

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

22

後者二要素の重要性

- 能力的成長と精神的成長(松尾2011)
- 能力的成長
 - 日本語の知識やスキルの習得
 - 社会言語的な言語使用ルールへの習熟
 - 学ぶスキルの向上 などなど
- 精神的成長
 - 自分のやりたいこと→他者への思い

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

23

教師の働きかけ方として

働きかけの段階

1. **モデリング**
2. コーチング
3. スキャフォールドイング
4. フェーディング

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

24

プロジェクト型授業に再挑戦

- 学ぶ価値がありそうだとけど普通の授業ではできないかもと思うテーマ設定
- テーマ設定で苦しめない
- **リフレクション**の場をふんだんに
- **他者への思い**を活動目標に含ませる
- **モデリング**をしっかりと

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

25

私の実践例

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

26

2015秋学期 超級ビジネス日本語

概要

- 履修学生7名(全員中国出身)
- 学部4年生2名, 交換留学生5名
- 週1回90分を15回
- 3名と4名のグループに分けて活動
- 共通テーマ「自分たちがビジネス日本語を学ぶために、大学では勉強できない内容を提供してくれるゲストを呼ぶ」「他の授業の学生にも広報をしてできるだけ多くの学生に役立つように企画する」

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

27

実践の流れ

工程表による進捗管理(授業で報告・修正・メールで送付)

1	大項目	小項目	担当	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	11F	12F	13F	14F	15F
2	準備	企画及び工程作成	全員	***	***												
3		企画書の作成	全員	***	***												
4		情報調査(アンケート含む)	A B	***	***	***											
5		作業員担当	A	***	***	***											
6	第一階段	まとも	全員	***	***	***	***										
7		ゲストを誘う	全員	***	***	***											
8		結果報告	全員	***	***	***											
9		ゲストを誘う	全員	***	***	***	***										
10		依頼状を依頼する	B C	***													
11	第二階段	依頼状を提出する及び返る	全員	***	***	***											
12		作業員担当	B	***	***	***											
13		ゲスト来る日程の調整などの連絡	C								***	***	***				
14		ゲストの出席と準備(交通費を払ふなど)	全員								***	***	***				
15		報告を募集する	D B								***	***	***				
16		アンケートの内容を改める	全員								***	***	***				
17	第三階段	アンケートを作る	A								***	***	***				
18		作業員担当	D								***	***	***				
19		調整期間	全員													***	***
20	調整期間	ゲストスピーカー及び現場の協力	全員													***	***
21		アンケートを配る	B													***	***
22		フィードバックをもらう	C													***	***
23		まとめる	全員													***	***
24	第四階段	事後連絡	C													***	***
25		フィードバックを返るも感謝状	C													***	***
26		作業員担当	C													***	***
27																	
28																	
29																	
30																	

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

28

Bチームの取り組み

- テーマ: 日本企業が求める人材を理解するために企業人を招いて講演をしてもらう
1. アンケート調査によるニーズ把握
 2. アンケート結果に基づいた候補者洗い出し
 - 友人, キャリアセンター, 教師, バイト先
 3. アプローチ(ことごとく失敗)
 4. 時間切れで教師紹介のゲストにアプローチ
 5. 打ち合わせ詳細やりとり
 6. 当日企画運営

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

29

教師の役割

- **モデリング**
 - メールで文面, キャリアセンターへのあいさつ
- **コーチング**
 - 授業での報告に対する質問, つっこみ, 勇気づけ
 - 役割分担の提案
- **スキャフォールディング**
 - 関係各所への連絡, 人脈の開拓
- **フェーディング**
 - ゲスト講演時の運営一切
 - お礼のメール送付

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

30

日本貿易振興機構 長崎貿易情報センター
 所長 小谷哲也 様

この度、天気の良い時期にも関わらず、ゲストスピーカーをお越しくださって誠にありがとうございました。

今回のゲストスピーカーで、私を含め、たくさんの学生にいい勉強になりました。小谷さんのスピーチから様々な知識を得て、皆さんの視野を広げました。実に申し分ないスピーチとっております。

最初の時、1時間半はちょっと長いすぎるではないかと思いましたが、小谷さんが予想以上にスピーチを盛り上げてくださいました。

こちらとしては、思いもよらなかったことです。これほど素晴らしいスピーチを頂き、こちらとしては充分の時間を用意できず恐縮な幸いです。

また機会があれば是非もう一度お越しく下さい。小谷さんと長崎外国語大学の皆さんとの素晴らしいイベントを期待しております。

では、今後とも、何卒よろしくお願い致します。

2016/03/19 Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved. 31

まとめ

2016/03/19 Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved. 32

まとめ(1)

うまくいった気がしたポイント

- クラスでは報告と相談のみで作業はクラス外とした(リフレクションの重視)
- メールでの報告や相談を重視し、授業後に必ずその日に報告したことのまとめを送付(教師のモニタリングと学生自身の学習管理)
- モデリングを意識的に行った(ゲスト依頼メールなどは当初モデルをいくつか示した, CCの活用)
- 適切なスカフオールディング(人脈の活用等)
- チャレンジの重視と学生への信頼(失敗してもいいからやってみようよと言いつづけたこと)

2016/03/19 Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved. 33

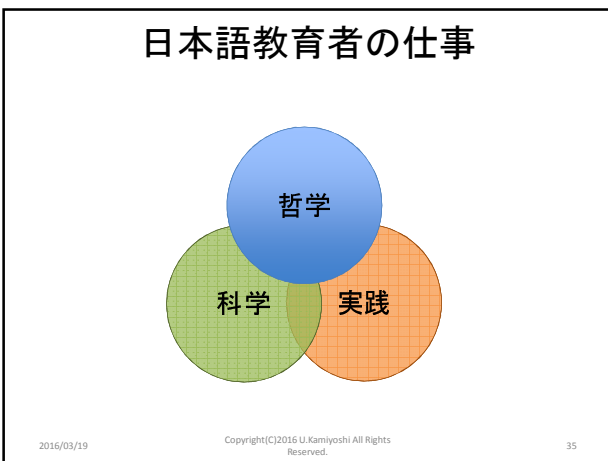
まとめ(2)

教室の役割(よさ)とは何か

- 時間的な余裕がある
- ミスが致命傷にならないのでチャレンジできる
- 「できないこと」が前提でいい
- 適切な支援やアドバイスがある

これがない教室は**価値がない**のではないだろうか

2016/03/19 Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved. 34



参考:他の取り組み

- ANADOによる異文化コンフリクト事例ディスカッション
 - 過去の経験を整理して共有, 解決策を考える
- になりたい自分ランキングディスカッション
 - 自身の将来, キャリアと今の学習との往還

2016/03/19 Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved. 36

あなたは新人ボランティア

あなたは元日本語教師。夫の転勤のため、10年勤めた日本語学校を辞めてしまったので、地域の日本語ボランティアを始めることにしました。

しばらくベテランボランティアの秋田さんの授業を見学するように言われたのですが、秋田さんは、ときどき文法を間違っ

て教えることがあります。日本語教師の経験が長いあなたは、学習者がその文法を間違っ

たまま覚えてしまうことが心配です。

ANAならばDOしますか？

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

37

間違いを教えている秋田さんの事例

こっそり秋田さんに間違いを伝える

A

こっそり学習者に正しい文法を教える

B

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

38

あなたは地域日本語ボランティア

ある日、小学生の子どもがいる韓国人のパクさんから相談を受けました。学校の先生が家庭訪問にくるのだけれど、先生にどんなプレゼントをしたらいいかという相談です。パクさんは、うちの子は日本語があまりできなくて先生にも迷惑をかけているし、お礼の気持ちを伝えたいから何かプレゼントしたいと言います。

あなたならどうしますか。

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

39

パクさんの事例

パクさんの気持ちを尊重して一緒にプレゼントを選ぶ

A

先生にプレゼントをあげるのはよくないことをパクさんが理解するまで説明する

B

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

40

どんな人になりたい？

1. 創造力がありイノベーションを起こせる
2. 批判的思考ができる
3. 問題解決や意思決定に秀でている
4. メタ認知ができ、学び方を知っている
5. ICTリテラシーに長けている
6. コミュニケーション能力が高い
7. コラボレーション、協働することができる
8. 市民として地域や国際社会を考えられる
9. 人生のキャリア設計ができる
10. 異文化受容能力が高い

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

41

参考文献

1. 中原淳編(2012)『職場学習の探求 企業人の成長を考える実証研究』生産性出版
2. 松尾睦(2011)『職場が生きる 人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
3. Kolb D. A. (1984) *Experimental Learning: Experience as the Source of Learning and Development*. Prentice-Hall.
4. Lave, J. and E. Wenger (1991) *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. Cambridge University Press. 佐伯胖訳(1993)『状況に埋め込まれた学習』産業図書
5. Morrison R.F., and T.M. Brantner (1992) What enhances or inhibits learning a new job?: a basic career issue. *Journal of Applied Psychology*. Vol.77, No.6, pp.926-940.
6. McCall, M. W., M.M. Lombardo, and A.M. Morrison (1988) *The Lessons of Experience: How Successful Executives Develop on the Job*. The Free Press.
7. Saxe, G.B. (1988) Candy selling and Math learning. *Educational Researcher* (17), pp.14-21.
8. Sfard, A. (1998) On two metaphors for learning and the danger of choosing just one. *Educational Researcher* (27), pp.4-13.

2016/03/19

Copyright(C)2016 U.Kamiyoshi All Rights Reserved.

42